

伊保内高校学校通信

伊高だより 3 月号



明 朗 ・ 創 造 ・ 努 力

編集・発行／岩手県立伊保内高等学校
〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村伊保内1-61-12
TEL(0195)42-3121(事務室) 42-3122(職員室)
<http://www2.iwate-ed.jp/ibn-h/>

卒業式

3月1日(本校体育館)

式 辞

校長 日野澤 明彦

例年より雪が多く残るこの九戸村にも暖かな日差しと春の訪れを感じることのできる季節を迎えました。

本日ここに、九戸村長 晴山裕康様をはじめ、PTA 会長様、同窓会長様、部活動後援会長様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、令和4年度 岩手県立伊保内高等学校卒業証書授与式を挙行できますことに、心から感謝申し上げます。

ただいま卒業証書を授与いたしました25名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんは、本校での3年間、学業に励むとともに、部活動や生徒会活動、委員会活動など、あらゆる活動に積極的に参加して本校の教育活動の先頭に立ち、在校生をリードしてくれました。おかげさまで今年度の伊保内高校は生徒と職員が一体となって大きな成果を挙げた1年となりました。

保護者の皆様におかれましては、3年間のご労苦を思うとともに、たくましく成長されたお子様の晴れ姿を目にされ、感慨もひとしおのことと拝察いたします。お子様のご卒業を心からお慶び申し上げます。そして、本校の教育活動に多大なご理解とご協力を賜りましたことに衷心より感謝と御礼を申し上げます。

今年の卒業生は令和2年4月に入学し、本校の新たな歴史の1ページを飾ってくれました。入学後は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、高総体では開催中止の競技があり、野球応援や地元の九戸祭りも中止となり、文化祭は生徒・保護者のみでの開催となりました。地域子ども読書会もDVDに収録して村内の小学校に配布するなど、様々な制限を受けた1年となりました。

中堅学年となった令和3年度は9月末に新校舎に引っ越しして新たな気持ちで学校生活を送り、修学旅行は新型コロナウイルス感染症を考慮して県内での旅行に変更して実施、地域子ども読書会も2年ぶりに村内8カ所で開催するなど、活動を工夫しながら実施する1年となりました。

最高学年となった今年度は、3年ぶりに開催された高校総体開会式、その後の高総体ではそれぞれの部活動が練習の成果を存分に発揮し、野球部は夏の全国高校野球選手権

岩手大会で初戦の大船渡東高校に1対0で勝利し、続く2回戦で花北青雲高校に5対2で勝ち、連合チームとして県内初の2勝、ベスト16を達成しました。全校生徒による野球応援を3度実施して応援団や吹奏楽部の演奏に合わせてメガホンをたたき、充実した応援活動を展開することができました。

また、郷土芸能委員会は昨年10月に行われた岩手県高総文祭郷土芸能発表会で、第2位相当の優秀賞1席を獲得し、全国高総文祭鹿児島大会への出場権を獲得しました。

学校生活では落ち着いた生活を送りながら、スポーツ大会では熱い戦いを展開し、伊高祭の学年企画では大いに盛り上がり、華やかな演出で在校生や教職員を書き込んで、来場した保護者や来客の方々を楽しませてくれました。

昨年度から取り組んでいる「伊高むらおこし会社」の取組では各グループのリーダーとして九戸村の特産品の中から新たに商品開発を進め、ビデオ制作や九戸村を題材としたゲーム制作など、これからの九戸村の産業振興のヒントとなる新たな風を吹き込んでくれました。

夏休み以降は、自分の進路目標達成に向けて進学や就職に全力で取り組み、卒業生25名全員の進路実現に向けた取組が実を結び、春から新生活を迎えます。

高校生活での3年間は、卒業生の皆さんの努力はもちろんですが、皆さんの保護者・家族をはじめとする周囲の方々の支えがあって本日の卒業式を迎えることができたことは間違いありません。改めて感謝の気持ちを素直に保護者・家族・周囲の方々に伝えていただきたいと思います。

ご来賓の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なるご理解とご支援を賜っておりますことに、改めて深く感謝申し上げますとともに、卒業生そして在校生に対しましても引き続きご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんがそれぞれの進路先で大きく輝き、この九戸村の自然のように雄大で、さわやかな活躍することを心から祈念し、式辞といたします。

送 辞

在校生代表 落安 美嘉

瀬月内川の川面に柔らかな日差しが煌めき、少し寒さが

残りつつも春の訪れを感じる今日。新たな世界へと旅立っていかれる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。この伊保内高校で多くのことを成し遂げてきた先輩方の晴れやかな眼差しに、私たちは嬉しさと誇らしさ、そして一抹の寂しさを感じずにはられません。それ程、先輩方は私たちにとって大きな存在でした。

皆様にはこの3年間でどのように振り返っているでしょうか。多くの人との出会いの中で色鮮やかな思い出を築き上げてこられ、新入生の頃より一回りも二回りも大きく成長されてきたと思います。私たち在校生はそんな先輩方を身近に感じながらも、目標としたくなるような存在に憧れ、その背中を追いかけてきました。このような先輩方との素敵な日々が今日で終わるかと思うと、どこか物足りなさを感じます。

そして進路決定においては、大変厳しい状況が新聞やテレビ等で報道されている中、自らの進路実現に向け真摯に取り組んでいらっしゃいました。放課後に3年生の教室の前を通るといつも灯りがともっており、努力を惜しまない熱意に感動しました。その姿勢からは目標に向かって努力することの尊さや厳しさを思い知り、次は私たちの番だと身の引き締まる思いもしています。

先輩方は常に、私たちにとって「このようになりたい」という目標でした。色々な面で私たち後輩の手本として過ごされ、とても頼りになる優しい先輩ばかりでした。先輩方と過ごした2年間は何にも代え難い思い出となり、全て忘れられません。これからは先輩方のようにお互いを尊敬しながら、一致団結して伊保内高校の未来を築く存在となることを在校生を代表し、ここに約束致します。

この先、先輩方が進まれる道には楽しいことや希望で満ち溢れていると思います。もちろん時には厳しく、苦しい壁が待ち受けているかもしれません。どうにもならない時は足を止めて休んでもいいと思います。そこからまたスタートして、この伊保内高校で過ごした3年間の思い出や友人、後輩、お世話になった職員、保護者の皆様の思いを糧に未来を切り開いてください。私たち在校生も心から応援しております。

最後になりましたが、卒業生の皆様のますますのご健康とご活躍を心よりお祝い申し上げ、送辞といたします。本日はご卒業、誠におめでとうございます。

答 辞

卒業生代表 櫻庭 千鶴

旅立ちの春を迎え、柔らかな日差しに温かさが感じられる今日の良き日に私たち25名の卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。校長先生をはじめとする諸先生方、ご来賓の皆様、そして保護者の方々と共にこの日を迎えられたことに大きな喜びを感じています。卒業生を代表し、心からお礼を申し上げます。

真新しい制服に身を包み、これからが始まる高校生活に、期待で胸を膨らませると同時に不安を抱きながら臨んだ入学式から、早、3年の歳月が経ちました。伊保内高校で過ごしたかけがえのない日々を昨日のこのように鮮明に思い出すことができます。学年で団結して最後まで戦い

抜いたスポーツ大会。問題を抱えながらも協力し合い創り上げた伊高祭。伊高むらおこし会社の一員として九戸村の魅力を沢山発信することができた総合的な探求の時間。今、振り返るとこの学校で過ごしたすべてに時間は、良き思い出として私たちの胸に残っています。

現在も猛威を振るい続けている、新型コロナウイルスが私たちの3年間の高校生活には、常に付きまとっていました。学習だけではなく、部活動や文化祭・修学旅行などいくつもの学校行事が制限されてきました。このような状況の中でも私たち一人一人が自分の目標に向かって頑張ることができたのは先生方のおかげです。本当にありがとうございました。

また、私たちはコロナ禍の生活の中でこれまで当たり前だった日常が送れず、悔しい思いを沢山しました。しかし、今まで当たり前だったことができなくなったからこそ、何気ない日常が何よりも大切だと気付くことができました。友達と大騒ぎをした事、先生と他愛もない話をした事、これらの大切だと思えた一瞬一瞬が人生に刻まれると思うと幸せな気持ちで一杯になります。それと同時に、もう二度と戻らない特別な時間であったと寂しさを感じます。大切な思い出の一つ一つを胸に刻み、私たちは新しいスタートを切り、それぞれの道を歩んでいきます。

在校生の皆さん、部活動や学校行事など様々な場面で共に活動したことは忘れません。これからの学校生活で悩む事や辛い事が多くあると思います。しかし、それぞれの目標に向かって後悔のないように挑み続けてください。皆さんの活躍を心から願っています。

そして、今まで一番側で支え、育ててくれた両親には、心から感謝しています。私たちは今日、卒業を迎えられたのは、計り知れないほどの愛情を注いでくれたからです。これからもまだまだ迷惑を掛けることもあると思いますが、精一杯、自分の決めた道を歩んでまいりますのでこれからもよろしくお願いします。

最後となりましたが、本日ご臨席を賜りました皆様へ感謝申し上げますとともに、伊保内高校の更なる発展をお祈りし、答辞といたします。



お世話になりました。

転 出 小田島 哲 男 (在籍6年・大野高)

中 田 道 子 (在籍7年・種市高)

退 職 日野澤 明 彦 (在籍2年)